

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 不思議なものをお前らに見せやう」長がもそもそと衣服のすそをまへり、垢にまみれたくしゃくしゃのものをびっぴり出したので、ニングルたちはのぞきこみました。

「判るかな？ 何か」長はそのくしゃくしゃを地の上に置くと、しみだらけの指で引き伸ばします。それは一枚の古いお札でした。

「これが人間の好物の、おがねというものの実物じゃ。もともと百年程前のものだが」

A ニングルたちはしんとしました。「何故が判らんが人間たちは、これを集めるのを、えらいよろこぶ。集める為なら色んなことをする。人もだますし仲間も裏切る。時には互いに殺し合います」

洞の中の空気がビツと凍りました。ニングルたちが一斉に、息をすることを止めてしまったからです。

大雪山の奥の巨大なカンソラの木の根元にあるこの大きな洞は、ニングルたちの住居です。

四月だという I 今年はまだ雪が全く溶けず、ニングルたちの予定はかなり狂ってしまいました。貯めておいた薪が、底をついてしまったのです。ですから少しずつトドマンの枝を折り石炬にくべて火を燃やすのですが、しめっている II なかなかつきません。洞の中は煙でいっぱいです。

一人のニングルが恐る恐るまきました。

「集めてどうするんじや」

「貯めて」

「貯めてどうするんじや」

「それがよく判らん」

煙にむせて、一人が大きなクシャミをしました。

「冬の間の食料にするんかな？」

そのニングルは冬の初めに、リスやネズミが冬場の食料をそと貯めこむの思い出したのです。

【 1 】がそとと手を出し、そのお札を取って食べようとした。

「食べちゃいかん食べちゃいかん！」

長が叫んだので【 1 】はびっくりしてその手をひっこめました。

「これは食いもんでない。食つてもつまらない」

【 2 】が言ったので【 3 】は、今度こそ本当におどろいてしまいました。

「食えんものをどうして貯めこむんだ」

「役に立たんなら誰も貯めこまんぞ！」

表の森を風が過ぎたらしく、サアツと雪の散る音が聞こえました。

「ハハア」

百五十才になる【 4 】が、考えこんでいた顔を上げました。

「これは恐らく穴ふさぎだな」

「？」

「穴にこれを貼つて、風を防ぐんじや」

「？」

洞の上部にはとろとろ、キツツキのあけた穴ほこがあって、冬の寒気がそこから入るのでニングルたちは困っているのです。

「そうか、穴ふさぎか」

② それは判るな

石炬のトドマンは煙をたてるばかりで、一向炎を上げてくれません。

「しかし」

と長が首をひねりました。

「穴ふさぎが欲しくて殺し合いをするかな」

この一言に、B ニングルたちは、しんと又だまってしまうました。長の年齢は二百八十三才。さすがに年寄りな思慮が深いなど、すっかり感心してしまつたのです。

そのときオッチョという仇名のニングルが急にボツリと、吹きました。

「火をおこす時使わんでないかな」

みんな一斉にオッチョを見ました。

実は③ オッチョとは、.....をちぢめたものです。

「これは軽いとるようだし、よく燃えそうだし」

みんなボカンとオッチョを見ている。彼があまり良いことを言ったので、彼のことをオッチョと呼んでいるのはまちがってたんじやないかと反省したのです。

ニングルたちは森の民であり、あつちこつちで野宿もしますから、風の吹く日など火をおこすのがいかに大変かをよく知っています。現に今だつて火の係りのニングルが炎を出さずと苦労しているのに、しめたトドマンは一向燃え上がらず、煙いばかりで参っているのです。

「これはきつと、火をおこす時に使わんでないか。さつぱりでも火がおこせるやつに、人間はこれを持てこんどくんじや。その為のものじや。そつちがいない」

オッチョの考えはもうアツという間に、ニングルたちを納得させたようです。コホンコホンと煙にむせながらあつちこつちでみんなうなずきます。

それでも長だけは考えおりました。

人間は夜も眠らんで、お札を貯めることを必死でしとるらしい。あれは本当に火をおこす為だろうか。

たしかに火を ( d ) とみんなあつたかいし、闇でも明るく浮き立たしてくる。火ぐらひありがたいものはない。だけどその為に入をたましたり、仲間を裏切ったりするもんだらうか。④ そんなことの為にはお札を貯めるんだらうか。

「試してみろへえ」突然オッチョがお札をつかんで石炬の中に放ろうとしたので長は思わずとび上がりました。

「待って待って待って!!」オッチョはびっくりして長を見ました。

「燃やしてみんとありがたみは判らんぞ。それとも長は⑤ ..... みたいに、黙つてこれをしまつた方がいいか？」

「.....」長はもうすっかり恥かしくて、年甲斐もなくしおれてしまいました。しまつておいたって何の役にも立ちません。それより今の煙ばかりたてるトドマンの枝が炎を上げたら、その方が俺に決まっています。オッチョの言うことは正しいことなのです。

⑥ いや、いい。アレダ。うん。燃やしてみよう」オッチョは安心してその古いお札を、トドマンの中にソツと入れました。みんな息を止め煙の中を凝視しています。白い煙の奥の方から、突然バツと炎があがり、トドマンがめらめらと燃え上がりました。ニングルたちの顔が赤く ( e ) します。もうあのいやな煙は上がらず、だいたい色の炎だけがみんなの顔を伴せに ( f ) ています。その伴せに長も染まりました。

長はぼんやり考えておりました。ああ人間はこの伴せが欲しくて、お札をいっぱい貯めこむんだな。たしかにこの火のあつたかさと明るさは、たとえようがなく伴せだもんな。外の森では、又、サラサラと新しい雪が降ってきたようです。

(倉本聰『ニングルの森』より)

問一 線①「不思議なもの」について、

(1) 何のことを「不思議なもの」と言ったのか、答えなさい。

(2) なぜそれが不思議なのか、説明しなさい。

問二 .....線 a、c の語を、意味を変えずにわかりやすく書きかえなさい。

問三 .....線 A「ニングルたちはしんとしました。」.....線 B「ニングルたちは、しんと又だまってしまうました。」について、各場面でのニングルたちの気持ちも説明しなさい。

問四 I・II に入る接続のことばを、ひらがな 二字で答えなさい。

問五 【 1 】〜【 4 】に入るものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

(二か所の) 【 1 】には同じ記号が入ります。

ア. ニングルたち

イ. 若いニングル

ウ. 中年のニングル

エ. 長

問六 .....線②「それは判るな」について、

(1) 「それ」とは何を指しているか、答えなさい。

(2) このように言っているニングルの気持ちを説明しなさい。

問七 .....線③の ..... に入る八字のことばをカタカナで書きなさい。

問八 ( d ) ( f ) には、次の ..... の中のどれかが入ります。最もふさわしいことばを、あてはまる形に直して答えなさい。(ひらがなで書いてもよい)。

染める 燃える たてる 映える 焼く 焚く

問九 .....線④「そんなことの為に人はお札を貯めるんだらうか。」について、

(1) 「そんなこと」とは何を指しているか、答えなさい。

(2) 「そんなこと」という言い方に注意して、.....線④のように言った長の気持ちを説明しなさい。

(3) ②の気持ちは、最後にはどう変わりましたか。変化した理由もふくめて説明しなさい。

問十 .....線⑤の ..... にあてはまる漢字二字のことばを書きなさい。

問十一 .....線⑥「いや、いい。アレダ。うん。」について、ここから読み取れる長の様子の説明として合っているものを、次のア〜オの中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア. みんなが知らないことを教えてやろうとしたのに、逆にやりこめられて腹が立ち

何があってもオッチョの説を否定しようとしている。

イ. 若いオッチョにためよられて、しどろもどろになっているのをこまかしている。

ウ. オッチョの言うことは正しいことのようにだが、まだびくびくで疑問に思う気持ちを引きずっている。

エ. 今まで軽く見ていたオッチョを見直して、とてもいいことだと感じている。

オ. そばにいた若いニングルに声をかけ、オッチョの考えをすくに試してみようというながしている。

(裏に続く)





例

配る—くばる

心配

① 修める—める

□  
□

② 群がる—がる

□  
□

③ 挙げる—げる

□  
□

④ 経る—る

□  
□

⑤ 在る—る

□  
□